

## Series.火薬製造所

### vol.6 史跡のなかの津々浦々

#### 概要

日時：令和7年1月25日（土）午前10時から午前12時まで

形式：巡検

会場：加賀西公園、史跡指定地

講師：学芸員 杉山宗悦・中村新之介

参加者数：36名

※かわりなずむ津々浦々と展のラーニングプログラムとして開催



#### 企画の趣旨

板橋区加賀にある国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」とその周辺には、加賀藩にゆかりのある遺構、全国の物理学者が集った建物、はるばる外国から輸入された機械の痕跡など、日本・世界各地とつながる要素が、豊富に残っています。

当日は学芸員2名と一緒にまちを歩き、日本・世界各地の「津々浦々」と関係に注目しながら、史跡などの文化財を見学しました。

## 当日の行程



地図は Open Street Map より作成 (<https://www.openstreetmap.org/copyright>)

- ①加賀西公園
- ②史跡指定地 旧理化学研究所 ※2班に分かれて見学
- ③史跡指定地 加賀公園
- ④史跡指定地 旧野口研究所

## 主な内容

### ①加賀西公園 「記念碑とヨーロッパ」



圧磨機圧輪記念碑

現在の加賀西公園一帯は、板橋火薬製造所の本部があった場所です。

同公園には「圧磨機圧輪記念碑」(区指定記念物)と「招魂之碑(明治35年板橋火薬製造所爆発事故)」(区登録有形文化財)という2つの文化財が残っています。

「圧磨機圧輪記念碑」はベルギーから輸入されてきた黒色火薬の製造機械「圧磨機」を、使用しなくな

った大正期に陸軍が「記念碑」に仕立てたもの。「招魂之碑」は 19 世紀末に**フランスで発明**され、日本でも欧米とほとんどタイムラグなく導入することになった無煙火薬に関するもので、明治 35 年(1902)に起こった爆発事故で亡くなった技手と職工を慰霊するために建てられました。

2つのモニュメントは、板橋火薬製造所が**ヨーロッパ**とつながっていたことを示唆しています。

## ②史跡指定地 旧理化学研究所 「旧理化学研究所跡地と津々浦々」



理研板橋分所 1 号館（戦前の物理試験室）

理化学研究所は大正 6 年(1917)の設立以来、**駒込に本部**を置き、日本の科学をリードしてきました。**岡山県出身**の仁科芳雄は、留学先の**コペンハーゲンのニールスボーア研究所**で最新の量子力学を学び、帰国後、理研（駒込）に自身の研究室を構えます。そのうちのひとつである宇宙線研究室は、戦時中に**金沢へ疎開**しました。宇宙線研には**金沢出身の研究者**が多く、疎開先での活動を支えました。

戦後、宇宙線研は空襲を受けていた駒込を離れ、板橋火薬製造所の跡地の建物 4 棟に借り受けて活動を再開しました。現存する理研の 1 号館と 2 号館には、宇宙線研究室時代の遺構も残っています。

## ③史跡指定地 加賀公園 「築山と金沢」



加賀公園の築山

板橋区「加賀」という地名は、江戸時代この地にあった**加賀藩下屋敷**に由来しています。面積は 21 万 7 千坪以上と、江戸大名屋敷としては日本最大の面積を誇りました。

当時の絵図からは、石神井川とその分水を利用した池泉回遊式庭園が存在したことがわかります。近代以降の開発によってその痕跡は少なくなりましたが、加賀公園の築山は、当時「大山」「高山」と呼ばれていた庭園の山です。築山の麓にあるモニュメントは、平成 20 年(2008)の**板橋区と金沢市と友好交流都市締結**を記念したものです。

#### ④史跡指定地 旧野口研究所 「旧野口研究所跡地と津々浦々」



弾道管

旧野口研究所跡地にある「弾道管」は、ヒューム管が30m以上連結された、ひときわ目を引く遺構です。これは戦前、板橋火薬製造所で行われていた火薬の発射試験で使われていたものです。

火薬には、銃砲の弾丸を発射する時に推進力を与える発射薬としての用途があります。そのため、陸軍は板橋で生産した火薬の性能を測る目的で銃砲を撃ち、ヒューム管の中を通る速度を計り、その性能を確認する「発射試験」を行っていました。それが発射場(射場)という施設です。

弾道管は昭和初年には建設されたと考えられています。昭和10年には、陸軍は**高崎にあった岩鼻火薬製造所**にさらに巨大なトンネル射場を構え、発射試験を行いました。板橋の弾道管は小型ですが、その端緒に位置付けられています。

※写真はいずれも講座の開催以前に撮影したものです。

#### あとがき

今回の講座では、ある工夫をおこなうことにしました。

それは、お客さまがトークに参加しやすい雰囲気づくりです。

これまでは2名の学芸員がエリアごと(旧野口研は学芸員A、旧理研はBというように)分担して説明することが多く、一方的に情報を伝達するばかりで、お客さまと史跡で対話する機会が少ないように感じていました。

そこで今回は、解説は遺構ごとに小まめに交代しながら、敢えて学芸員同士が掛け合ってみる(質問や意見)ことにしました。

そうすると、お客さまもどことなく和やかな雰囲気となり、お話に反応して、質問の手が次々と上がりました。その効果は、アンケートからも読み取ることができました。自然と対話が生まれるきっかけになったと感じています。(S)

---

作 成

令和7年3月11日

板橋区教育委員会事務局史跡公園担当課

※本資料の複写、複製、二次利用は私的使用を目的とする場合に限りません。